

「瓦 版」



2026. January. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.25

仙台二華高校の課題研究

～北上川／東北地方、メコン川／東南アジアをフィールドとした
世界の水問題解決のための取り組み～

宮城県仙台二華高等学校
教諭 地主 修

仙台二華高校で行っているカンボジアにおける課題研究の活動内容をシリーズでご紹介しております。

仙台二華高校では、毎年8月（雨季）と12月（乾季）の2回、メコン川フィールドワーク（以下 FW）と称して約2週間、メコン川流域の東南アジアを訪問しています（うちカンボジアには約1週間滞在）。仙台二華高校の課題研究では、「高校生による本気の国際支援」を目指して、住民と一緒に水問題の解決に奔走しています。課題研究のグループはシェムリアップを対象としているものだけでも雨水、バイオトイレ、水質、教育・エコ容器の4グループがあり、FWに参加した生徒は宇宙飛行士さながら、他のグループから依頼された調査を次々にこなしていきます。

第5回・第6回は、2年前にメコン川フィールドワークに参加した生徒が、卒業後海外大学入学までのギャップイヤーでカンボジアに滞在した約3か月の奮闘記を本人に書いていただきます。

仙台二華高校 OG の高橋怜楽と申します。

高校時代の FW でカンボジアの空気に、歴史に、そして人々の穏やかな優しさに惚れ、2025年6月から8月までの3ヶ月間、村の学校の先生としてインターンをしながらカンボジアライフを満喫した軌跡を綴りたいと思います。



～腸チフス体験記～

水や食べ物には気を付けていたつもりだったのですが、腸チフスに罹患しました。まさに、カンボジアに来たからこそ経験できたことです。村の病院に行った結果、処方された薬が全く合わず病状が悪化し、日本のグループがサポートしている町の病院に入院することにしました。入院当初の5日間は熱に苛まれましたが、その後体調は回復し、退院することができました。病院食のマンゴーが食べられるようになったときの感動は忘れられません。（カンボジアの病院では、基本、病院食はありません。病院の外にならんだ屋台で、お見舞いに来た患者の親族が食事を買い、患者に届けます。私は、日本のグループがサポートしている病院にお世話になったため病院食が出ました。）



病院での日本語教室の生徒さんたち

ハードな経験ではありましたが、新たなつながりを得ることもできました。病院を支援しているグループは孤児院も運営しており、そこで暮らす子供たちにも、日本語を教える機会をいただきました。みな気さくでフレンドリーな子供たちです。特に、お姉さんたちは、日本語をずっと勉強していて、いつか日本にも行きたいと話してくれました。ちなみに、ホームステイ先のファミリーは誰一人として体調を崩しませんでした。免疫ができているのでしょうか。流石です。私も、向こう2年間は腸チフスにかかるないそうなので、胃がこの経験を経てレベルアップしたのかもしれません。

～村から町へ～



ホームステイ先の
ファミリーとお別れ

お世話になったホームステイ先のファミリーに「また戻ってくるよ！」とお別れをし、村から市内のゲストハウスへ。旅人が多く滞在するゲストハウスに2ヶ月沈没しました。人ととの出会いを大切にする場所に滞在したおかげで、スタッフさんやゲストさんたちと仲良くなり、いろいろなところを一緒に回りました。シェムリアップでは、世界遺産の遺跡群はもちろん、サーカス、伝統舞踊アプサラの舞台、IKTT 伝統織物研究所など、カンボジアの豊かな文化に裏打ちされた芸術を楽しむことができます。また、現地の村の生活を体験できるツアーやホームステイなどもあります。のどかでしたたかなカンボジアの暮らしを全身で感じられる機会になります。非常におすすめです。

～中学校・高校の様子～

私が教えていた中高は、JST（アンコール人材養成機構）という日本のNGOの支援で建てられた学校で、JSTは継続して教育支援を行っています。学校までは、トウクトウク専属ドライバーの方に送ってもらっていました。毎日、アンコールワットのさきっちょをみて、ローカルマーケットの人々と微笑み合い、牛を眺めながら通学していました。

学校では例にもれず、柔軟さが求められます。授業の終わりの時間は、曜日によって違う（ときもある）。テスト期間に近かったのもあり、授業のあるなしも当日連絡。机の上に机が積み重なっていて、黒板が見えない。（生徒さんに”Teacher, I can't learn because of too many desks”と報告されました。）そういうときは、「しょうがない！」と笑って、目の前にあるもの全てを活用してベストを尽くすしかありません！

そういう想定外の事象がありつつも、生徒さんや先生方からは学ぶ意欲が強く感じられます。カンボジアの学校は、基本的に午前午後の二部制です。この制度は、ポルポト政権時代の知識層虐殺の影響で未だ先生の数が少ないと、そして生徒の数が多いことが関係しています。

授業がない時間にも、学校の空いている教室や外で、課外授業を受けている生徒さんの姿が見られます。先生方が担当外の教科を教えたり、高学年が低学年の子に教えたりする姿もあります。

生徒さんたちにとって、小中高の教育は、将来を切り開くための道しるべとなります。高校3年生の最終試験で優秀な成績を収めれば、大学進学や奨学金への道もひらけます。努力をしている子供たちを見ていると、この積み重ねがきっとカンボジアの未来になるのだと信じることができます。その積み重ねに、ほんの少しですが、手を添えられたことを誇りに思います。



課外授業の様子

この3か月間は、一瞬一瞬が学びであふれ、自分の持っているすべてを吸収しようと奮闘した日々でした。サポートしていただいたすべての方々、学校の生徒さんと先生たち、そしてこのような執筆の機会を設けてくださった在仙台カンボジア名誉領事館の方々に心より御礼申し上げます。

オーケンチュラー。ありがとうございました。

高橋怜楽

宮城をもっと楽しもう！

直近の宮城県の観光に関する話題やイベントをご紹介します！

◎「ラプラス公園 in かせぬま」オープン！

令和7年10月31日(金)、利府町のモリリン加瀬沼公園に「ラプラス公園 in かせぬま」が新たにオープンしました。

宮城県と株式会社ポケモンの連携協定に基づき、「みやぎ応援ポケモン」に就任している「ラプラス」をモチーフにデザインされた公園です。

「ラプラス」やみずタイプのポケモンたちの遊具が並び、まるでポケモンの世界に入り込んだような気分に。

公園内には、「ラプラス」たちが描かれた新しいポケモンマンホール「ポケふた」も設置され、記念撮影にもぴったりです！



[詳細はこちら →](#)



◎「SENDAI Bright-Nights STORY」開催！

令和8年1月19日(月)～2月28日(土)の期間、仙台市内の定禅寺通と勾当台公園が4つの異なる世界観で彩られる、新しい冬のイルミネーションイベントが開催されます。

色彩豊かな光の壁、輝くプリズム、星座ライティングやミラーボールの幻想的な空間など、多彩な光の演出を展開し、冬の仙台に新たな物語を灯します！

[詳細はこちら →](#)



この他にも、宮城には魅力がいっぱい！

自然、歴史遺産、お祭り、温泉や食事(お酒)など、数々の魅力あるコンテンツが皆さんをお待ちしています！



本記事は宮城県経済商工観光部観光戦略課が在仙台カンボジア王国名譽領事館との交流拡大に向けた取組の一環として寄稿しています。